

太径のあと施工アンカーを用いた耐震補強工法の実験的研究

細井 泰行¹⁾

Study on the Shear Strength of Work Joint with Post-installed Anchors of Large-Diameter

Yasuyuki Hosoi¹⁾

■ 要 旨 ■

耐震補強工事において、既存躯体と補強用増設躯体を一体化させるために、あと施工アンカーが一般に用いられる。本報告の工法は、太径(40mm)のあと施工アンカーを用いるため、耐力および剛性が高く、また、既存躯体側は太径部分を20~30mmだけ埋め込むため、時間・手間を要さず、施工性が良好なことが特長である。

耐震壁の増設による耐震補強工法では、増設壁の既存躯体との打継ぎ面に近い部分には補強筋としてスパイラル筋を用いることが多いが、太径のあと施工アンカーを用いる場合、アンカーとスパイラル筋が干渉し、スパイラル筋を配置できない。そこで、スパイラル筋の代わりに、あと施工アンカーの両側にコの字形の補強筋(割裂防止筋)をあと施工アンカーに接するように配置し、その基本的な構造性能を検証する。

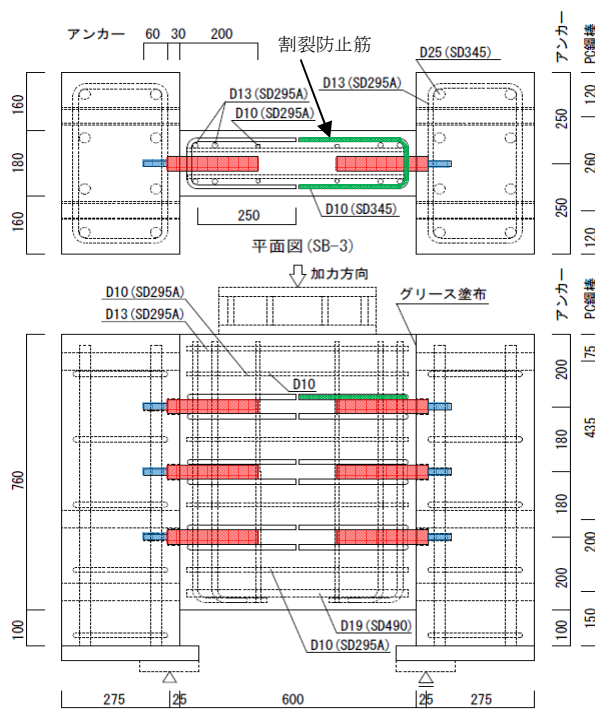


図-1 試験体形状

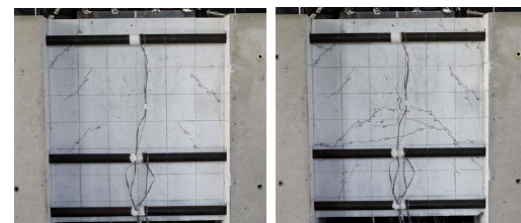


写真-2 ひび割れ状況



写真-5 実験終了時破壊状況

1) 技術研究所 建築技術開発部